

[うえる]

Vol.9

2023
Winter

Take Free

謹
賀
新
年

2
0
2
3



社会医療法人ましき会
益城病院
MASHIKI HOSPITAL

Contents

巻頭言	1
つながる2023!	2
静岡県のシンポジウムに「ましまる」がデビュー!	5
ましきの風マルシェ	6
犬飼記念美術館	8
院内学会	9
ハートストーリー	10
こころ相談室	11
コ・メディカルのお仕事／スペシャリストのたまご	12
心の健康フェスタ&くまもと障がい者芸術展／けんこうUPレシピ	13
お月見会／風のガーデン	14
わたしのイチ推し!	15
現場に活かす研修成果	16
研修と院内勉強会／診療実績／病院等行事／実習生受け入れ実績	17

基本理念

Our Philosophy

社会医療法人ましき会は、患者さんとそのご家族に対し、最善のプロフェッショナルサービスを提供し、精神科医療の責任ある担い手として、地域の医療・福祉・文化に貢献します。

患者さんの権利と義務

Patient Rights And Obligations

1. すべての個人情報を守られます。
2. 医療上の情報について十分な説明を受けることができます。
3. 医療行為について自ら選択することができます。
4. ご自身の負担で、他の医療機関の医師の意見を聞くことができます(セカンドオピニオン)。
5. いかなる場合も人格的に尊重され、平等な医療を受けることができます。
6. 適切な医療のために必要な情報を伝え、主体的に治療に参加してください。
7. 病状の改善及び共同生活を維持するため、規則や指示を守ってください。
8. 医療にかかった費用を支払う義務があります。

職員の倫理

Ethics Of Staff

1. 益城病院の基本理念・行動指針を自己の行動規範とします。
2. 医の倫理を踏まえ、患者さんの権利を尊重し、希望のもてる医療を行います。
3. 仕事に誇りをもち、全ての患者さんに公平・平等な医療を行います。
4. 質の高い医療を提供するため、自己啓発に努め、自身の健康増進に努めます。
5. 温和で謙虚、協調と礼節を重んじ、患者さんや地域からの信頼を得よう努めます。

5つの誓い

Five Oath

1. 私達は、精神科医療を通じて社会貢献に努め、社会医療法人としての公益的使命を果たします。
2. 私達は、こころを病む人々に対し、尊厳を損なうことなく、心身の健康づくりに努めます。
3. 私達は、こころを病む人々が、地域で安心して暮らせる環境づくりに努めます。
4. 私達は、お互いの立場を尊重し、働きがいのある職場づくりに努めます。
5. 私達は、医療の質を高めるため、日々、自己研鑽に努めます。

益城病院の深く長いつながり

会長 犬飼 由貴子



益城病院とともに過ごして、早や六十余年の月日が流れました。過ぎ去る年月のはやさは驚くばかりです。数多くの職員の皆さんや患者さんとの出会いがあり別れがあり、数々の思い出を懐かしみながら、この日頃を過ごしております。

先日、旧益城病院の跡地にオープンした茶房「茉莉花(ジャスミン)」で、お茶を飲んでおられたご近所の女性の方にお話を伺うと、「私の母は昔ここの病院で仕事をしていました」とのこと。懐かしさにかられ、益城病院の来し方をたどってみました。

現在、バラが満開のバラ園辺りに東病棟が建っていて、廊下続きで西病棟へとつながり、その中間に給食棟があって、いつも美味しい匂いがしていました。やがてその北側に患者ホールが建てられ、誕生会やレクリエーション等活動の場が広がっていきました。知り合いのバス会社からマイクロバスを譲り受け、山や海へとバスハイクも始まり、初めて海を見たという方もあり、皆さんの笑顔が思い出されます。

益城病院には院内保育所がありますが、昔、看護師であったお母さんから預かった赤ちゃんが、その後職員になり、さらにその子どもさんを預かる…といった“つながり”も益城病院ならではのことでしょう。

あの熊本地震を乗り越えて、移転新築なった新益城病院の威容を前に、改めて益城病院の70年の歴史を思い浮かべるとき、これまでの多くの方々とのつながりの広汎さ、深さに感慨無量です。

関係作り



理事長 犬飼 邦明

日本人は祭り好きですし、日本に限らず世界中の色々な地域で祭りは繰り広げられています。祭りの神輿(みこし)に担がれるものは宗教のシンボルだったり、自然災害や外敵への備えであったり、五穀豊穡を祈ったり様々ですが、一つの目標に向かって力を結集し老若男女が集まり楽しむ様は見ている心地よいものです。徳島の阿波踊りのように「踊る阿呆に見る阿呆(踊る者も見る者もみな阿呆)」とばかりに、様々な掛け声や打楽器と共に囃し立てられると、見物者もいつの間にか胸の鼓動と同期し、熱狂し、足踏み鳴らして参加してまいります。サッカーワールドカップにも似たようなものを感じます。

益城病院でも、これまで多くの祭りを行ってまいりました。揃いの法被を身に付け、手作りの神輿を担いだこともあります。目的は職員、患者さん、地域の方々が家族連れで参加し楽しんでいただくことで、外部の方に病院を知ってもらう機会にもなっていました。関わる職員は大変だったでしょうが、リーダーを決め、スタッフを集め、アイデアを出し合い準備に汗を流すこと、慣れない手で煙に巻かれながら焼き鳥を焼いたり屋の真似ごとをしたり、夜店さながらのテント小屋には熱気があふれていました。

このたび、ようやく「創立70周年記念社史」が上梓しました。「これさえ読めば益城病院の歴史の全てがわかる」という意気込みで、元事務長の浦橋一秀氏が制作にあたりました。内容の多くはこれまでの出版物の再掲ですが、諸先輩方の手記や体験談も含まれています。いま思えば1991年に弱冠40歳で院長職に就いた時、システムも価値観も関係性も全て前院長の色に染まっている中、何から手をつけたらよいのか戸惑うばかりでした。前例や慣習を変え、新たなスローガンや理念を掲げ、思い切って病院の建物全体を作り変えることにし、「構造体が変われば関わり方も変わり、結果も変わる」という思いを込めました。

1995年のリニューアルオープン後、全国から多くの見学者が当院を訪れ、雑誌の取材を受けました*。これまでになかった精神科病院機能を模索し、多くの看護・コメディカルスタッフを雇い入れ、病院職員の共通のベクトルを構築するために職員研修を始めた頃、「関係作り」という言葉を耳にしました。Stakeholder、CS、ES、Positive-feedback、BSCなどの耳慣れない言葉を当時はなかなか理解できませんでしたが、いま考えると私たちが担うべき「神輿」はこういう概念の中にあっただのではないかと思いますし、当時の学びは、いまにも通じるものではないでしょうか。

*「50周年記念PANDRABOX別冊」P79～154

コミュニケーションと絆



院長 渡邊 信夫

動くこともないように見える植物も、コミュニケーションはとっているのだそうです。1本の木が虫や動物に食べられた時に、周囲の木は食べられないということが起こる。食べられた木が周囲の木に危険を知らせる物質を出して防御を促しているのだそうです。木の種類によっては、虫の天敵を呼び寄せるような物質を出すことさえあるといます。コミュニケーションというのは、意識的なものだけではなく、自然の摂理として備わっている面が大きいです。自然からの働きかけに人間は鈍感になっているのかもしれない。

愛情ホルモン、幸せホルモンとも呼ばれるオキシトシンは、ストレスから脳を守り自律神経を整える効果があるとされています。親しい人と身体的に接触したり、視線を合わせた時などにオキシトシンは分泌されます。可愛がっている犬と見つめあってもオキシトシンは分泌されることが分かっています。コロナ禍で、リモートでの会議や面談が増えています。リモート画面を通して視線を合わせてもオキシトシンは出るのでしょうか。ましてや、SNSによる文字だけのやり取りでは、情報の交換以上の効果は期待できそうにありません。

人と人との強くて理想的なつながりを表す「絆」という言葉は、東日本大震災以後、災害

などの状況でよく使われるようになりました。絆は意識して作れるものではなく、危機に瀕した時に、普段は意識の中心にある社会的欲求や自己実現欲求などが消え、人間の本質的にもつ人との関わりへの欲求が意識の中心を占めることによって感じられるもののようにも思えます。

いずれにせよ、人は人と会うことでしか本心を伝えたり、相手の気持ちを読み取ったり、安心したり、癒されたりすることはないようです。簡単に気楽にできる情報伝達の手段が増えています。面倒でも会いに行くことの大切さを忘れないようにしたいものです。



つながり



副院長 松永 哲夫

これはフィクションではありません。ある患者さんの実際の体験談です。

私は医者から「糖尿病で目が見えなくなるぞ」と脅されて、それが怖くてしばらく酒をやめていました。そんな時、女房が病気で急死しました。火葬場での骨上げの時に、娘がいきなり大きな声で「お母さんが死んだのは、お父さんのせいだ」と言って泣き出しました。私は「大勢の親戚の前で、何でそういうことを言い出すか」と叱ろうとしたら、息子まで娘をかばうようなことを言い出したので困ってしまいました。私はすでに酒をやめてはいましたが、「これじゃいかん」と思って、断酒会につながることになりました。

以前、娘が中学生だった時、「お父さんが喜ぶようなら、もう勉強はしません」と反発したことがあります。私は意味が分からずに、びっくりしましたが、その時、妻に対して「あんなことを言わせないようにしないとイケん」と叱ったことを憶えています。同じ頃、家庭訪問があつて、先生から「娘さんには爪がありません」と言われました。噛んで、爪がほとんどないような状態になっていたんですね。それと、後になって息子から聞いたのですが、髪もずいぶん長くて腰くらいまであつて、ずうっと枝毛を気にしていたそうです。息子から「〇〇が髪を切った時のことを憶えているね?」と聞かれましたが、全然、憶えていませんでしたし、

意味がわかりませんでした。私は酒ばかり飲んでいて、子どもたちのことを考えていなかったことを思い知らされました。子供たちはずっと私を父親とは認めていなかったと思います。

断酒会に入った後、自分が飲んでいた頃と比べて変わったところがあるとすれば、人の話をよく聞いて、その意味を考えるように努力しているところだと思います。子ども達は年に1,2回しか帰って来ませんが、今まで話をしなかった子ども達が少しずつ話をしてくれるようになったことを嬉しく思っています。先日、孫から「おじいちゃん、お誕生日おめでとう」とプレゼントが来ました。そこに娘からのプレゼントも一緒に入っていました。考えてみれば、20年ぶりの娘からのプレゼントでした。嬉しくてお礼を言おうと電話をかけました。そうしたら「誕生日のプレゼントが遅れて、ごめんね」と、娘から言ってもらいました。





ましまと理事長のツーショット

静岡県浜松市の第11回日本精神科医学会の学術大会において、「精神科病院のブランディング～マスコットキャラクターが果たす役割～」というテーマのシンポジウムが10月28日に開催され、当院のマスコットキャラクター「ましまる」が登場しました。

全国の6病院から個性的なマスコットが参加し、10分間の持ち時間内でマスコット制作の経緯やその後の活動、マスコットにより地域とのふれあいがどのように変わったかなど様々な発表がありました。当院からは理事長の犬飼邦明がシンポジストとして講演し、その補佐役を「ましまる」が立派に果たしました。最初の5分をスライドによる説明にあて、残り5分は「ましまる」と同伴した職員による〇×クイズを行いました。

精神科病院は昔から閉鎖的なイメージがありますが、マスコットを活用しているそれぞれの病院が取り組みを楽しく披露し、親しみやすい病院づくりに努力している姿を知るとともに、「ましまる」のアピール力を改めて確認する機会となりました。

広報委員 犬飼 翠



マスコット集合



出演した職員と一緒に

沢山練習したおかげで
大成功だったまる!



静岡県のシンポジウムに「ましまる」がデビュー!



初開催

ましきの風マルシェ

10月10日(月)に開催しました。

たくさんのご参加ありがとうございました。

就労継続支援B型事業所 あひるのしっぽ (洗濯作業)
精神保健福祉士 伊豆丸 聖乃

就労継続支援B型事業所 あひるのしっぽ (洗濯作業)
作業療法士 西川 枝里子

“B型事業所も時代の流行に乗れる”という思いで職員と利用者総動員で取り組み、初の「ましきの風マルシェ」を開催することができました。利用者さんから「職員も当日は私服で来てください。利用者も職員も当日は同じマルシェスタッフです」と提案がありました。垣根を越えて力を合わせることができていると実感しました。当日は、100名ほどのご来場があり、思ってもみない大成功に、このマルシェが第2回、3回と規模を拡大しながら続いていくことを願っています(^_^)

コロナ禍で制限が多い中、新しい催しを企画することに不安もありましたが、利用者とスタッフがともにアイデアを出し合うことで「ましきの風マルシェ」を作り上げることができました。接客が不安と言っていた方々が、当日には積極的に会計や商品説明などを行っていて、本番に強い利用者はとても頼もしく感じました。今回のマルシェが刺激となって、日々の作業意欲も向上しています。今後も春・秋の年2回の開催を目標に、ましきの風を盛り上げていきます!



出店者からのひとこと

就労継続支援B型事業所
あひるのしっぽ(洗濯作業)
精神保健福祉士 森 久江

ドライフラワー、アロマワック
スパー、入浴剤、くるみボタ
ン等の雑貨を販売しました。
怪我や事故無く、販売もでき
て、マルシェが開催できた事
に感謝します。



就労支援事業B型
クリーンサム (清掃・院庭管理)
職業指導員 田尻 俊二

子宝草 (子宝に恵まれる、金
運・仕事運アップの縁起の良
い) の販売とミニ四駆会場を
設置しました。ミニ四駆レー
スは子どもたちに好評でし
た。



Yummy!

就労継続支援B型事業所
風のテラス (軽食・喫茶)
在宅支援部 部長 増田 なみ子
職業指導員 原田 キン子

風のテラスで提供しているダ
ルゴナコーヒーを販売しまし
た。お客さんから「初めて飲
みました。すごく美味しいです。」
と感激の音が聞かれました。



就労支援事業B型
まりも (パン工房)
職業指導員 郷野 兼義

ホットドックや新商品のワッ
フルの販売をしました。「美味
しい」との感想が多く、地域
の方とも交流ができてよかつ
たです。



・ミモザ (弁当販売)
・YAMADAHOUSE
(サンドイッチ販売)

次回開催時は納品だけ
でなく、ぜひ出店させてく
ださい (^ ^)



あひるのしっぽ (洗濯作業) Mさん

風が強くてテントをしっかり
と押さえるのが大変でした。
緊張したけど、楽しかつた
です。



あひるのしっぽ Fさん

キャンドルも売れたしヘア
ゴムも売れましたよ。病院
の職員も来ましたが、近所
の人も来ましたよ。またマ
ルシェやりたいですね。と
ても楽しかつたんですよ。
6時間くらいありましたが
、楽しくてあっという間に
終わつたんですよ。

今日は、駐車場の案内板を
設置したり、販売のお手伝
いをしました。分からない
ことは、スタッフさんに尋
ねることが出来ました。疲
れたけど、商品が売れて嬉
しかつたです。



あひるのしっぽ Fさん



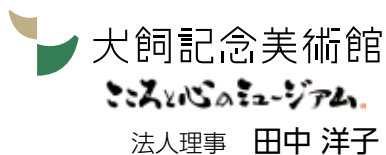
風のテラス
(軽食・喫茶) Yさん

緊張していたけど、楽し
かつたですよ。重いものを
運んで、腕が筋肉痛にな
りました。次回も楽しみに
しています。

ましきの風マルシェ (第2弾) を開催予定です!
日時: 4月22日 (土) 10:00~14:00
会場: 旧益城病院跡地 (芝生広場)



人間国宝 工芸の美とわざの魅力



法人理事 田中 洋子

12月5日より6週間、人間国宝として認定された12名の作品を展示しています。益城町出身の漆芸の増村益城氏、熊本市出身の肥後象眼・透かしの米光光正氏、衣装人形の平田郷陽氏の作品など14点を展示しています。工芸の技術が無形の「わざ」として高度に体現した作品の数々、完成されたその美しさをごゆっくり鑑賞いただけるよう長期の期間展示となっております。多くの方のご来場をお待ち申し上げます。

展示作品

- 増村益城 【漆芸】
- 米光光正 【肥後象嵌】
- 平田郷陽 【人形】
- 中島宏 【青瓷】
- 前田昭博 【白瓷】
- 井上萬二 【白瓷】
- 藤原 雄 【備前焼】
- 生野祥雲斎【竹工】
- 川北良造 【木工芸】
- 喜多川平朗【袋帯】
- 細見華岳 【綴れ織】
- 小宮康孝 【江戸小紋】



1



2



3



4



5

- 1.白瓷/井上萬二(左)前田昭博(右)
青瓷/中島宏(奥)
- 2.乾漆/増村益城
- 3.衣装人形/平田郷陽
- 4.肥後象嵌/米光光正
- 5.木工芸/川北良造

第12回 院内学会

益城病院 それぞれのチャレンジ ～大丈夫、みんな頑張っている～

日時 令和4年12月3日(土) 9:40～14:35

場所 研修センターA・B

スケジュール

am

9:25 受付
9:40 オリエンテーション
9:45 開会(渡邊院長)

10:00 第1席
第2席
第3席
第4席

11:20 講評(渡邊院長)
休憩(昼食)

pm

13:30 レポート
質疑応答

14:35 閉会
片付け

取組発表

- ◆ 第1席
入退院を繰り返す患者の看護
～依存心が強く自己決定が出来ない患者への支援～
(C病棟:松本早紀)
- ◆ 第2席
高齢の母との二人暮らしの統合失調症患者に訪問看護を行って
～マズローの五段階欲求を用いての一考察～
(外来:町田洋子)
- ◆ 第3席
精神科デイケアの支援について
～院内・外来との連携強化でできた現在の状況～
(PDC:岩木 謙)
- ◆ 第4席
チェンジ!チャレンジ!洗濯
～作業がもたらすグループダイナミクスの効果～
(ましきの風:伊豆丸 聖乃)

レポート

新型コロナウイルス感染症の院内感染に関する報告書
(看護部:山下雄三)

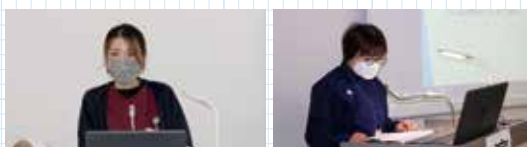
※質疑応答(15分)
渡邊院長(座長)・伊津野病棟長・山下雄副部長

第12回院内学会は、上記の要領で多数の参加者のもと開催された。演題は4席で、1席目:支援困難な方をいかに支えるか、2席目:いかに自立を促していくか、3席目:利用者のニーズをどう生かしたか、4席目:利用者のニーズに引きずられず、スタッフの押し付けにならず、いかにしてできたか。

どの発表も、ワクワクしながら聞いた。演者は特に緊張の色も見せず、言語明瞭で聞きやすかった。仲間の発表に、質問・感想・提言と活発に意見交換がなされ、最後に司会の先生が上手にまとめられ、学びの多い充実した時間になった。

研究というと二の足を踏む人もいるが、材料は毎日の仕事の中に沢山ある。「どうにかしたい」「違ったやり方がないか」という問題意識を持ち、「それはなぜか」という仮説ができれば、仮説が本当か否か確認する方法(文献、聞き取り、事例研究等)が見えてくる。来年の学会は、今年よりさらに多くの演題が出ることを期待します。益城病院をもっと良い病院にしよう!

在宅診療部長 末永 英士



Heart Story

— 小さなこころの物語 —

あの日、自分を包んでくれた家族の愛。支えてくれた友達や同僚。患者さんとの心温まるふれあい。勇気や力をくれた出来事etc... ころの中にしてしまっていた小さいけれど大切な思いを、ご一緒に。



訪問看護を開始した頃の小幡副看護部長

心に残る温かい思い出

看護部 副看護部長

小幡 祐子



私が就職した年は、まだ入院治療中心の病院体制で、閉鎖病棟が4病棟、開放病棟が2病棟という4つの病棟構成でした。配属された閉鎖病棟には、初めて見る隔離室もありました。そんな時代でしたが、徐々に外来医療中心へとシフトしていき、再入院を減らす方針に沿って訪問看護が始まり、その担当になりました。土地勘もないことから、聞き取りしながら患者さん宅の地図を手作りしていたことが思い出されます。

院内の患者家族会を通じて密な関係を築いた各町の保健師さんに、患者宅へ同行してもらうこともありました。地域での生活状況や患者さんの人となり、家族背景などの情報が得られ、わかり合える喜びと訪問看護の醍醐味を感じました。地域連携によって病状の変化を早期に発見し再入院を防げることは、やりがいを感じる貴重な経験で、訪問看護は、障害を持ちながら地域で暮らす患者さんを知り、病気への理解を深める学びの場でもありました。

現在では考えられませんが、ある時、訪問看護の移動中に車が故障し、病院からの迎えに時

間がかかり、患者さん宅のご好意でお昼ご飯をごちそうになったこともあります。また、携帯電話も無い時代、電話のある家を探して長い道のりを移動したことなど、今では懐かしい思い出です。

心に残る思い出と言えば、食事に手を付けないう被毒妄想の患者さんがいました。私が「安心だから」とどんなに勧めても食べてくれなかったのですが、先輩ナースが来て、その患者さんのお盆から箸を取って、ご飯を一口食べて見せたのです。身をもって大丈夫だと伝える先輩ナースの行動は、難しい理屈ではなく自然に患者さんに共感し、心配や不安を取り除く行為でした。その時の感動は今でも忘れることはできません。症状に寄り添う看護やラポールの形成を、このような形で気づかせてくださった先輩に心から感謝しています。

私自身も、順風満帆に過ごしてきたわけではなく、病気や入院、子育てと仕事の両立など大変でした。それでも働き続けられたのは、迷った時、不安な時、支えてくれた仲間や背中を押してくださった諸先輩方の存在があったからです。そして勤続40年を過ぎ、今があります。共に働く仲間へ感謝です。当院も新天地への引越しから4年が過ぎました。お互いの仕事を尊重しながら学び成長し、地域と共に歩み、地域から求められる病院であり続けるよう微力ながら励みたいと思います。

心の病気や不調など私たちにとって身近な問題について、
精神科の専門医がアドバイスします！

こころ 相談室

第8回「てんかん①～原因と主な症状～」

てんかんは、突然の発作を繰り返す病気ですが、その原因や症状は人により様々です。知っているようで知らないてんかんについて、宮崎知博医師が2回にわたって詳しくお答えします。

Q1

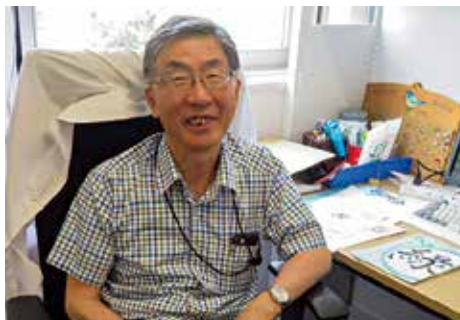
てんかんの原因としては、
どんな事が考えられますか？

まず、共通するのは「てんかん」は脳の病気であることです。100人に1人くらいの割合で発症し、全国に100万人以上の患者さんがいると思われまます。神経細胞が過剰に電気活動を放つことで起きます。それが脳の特定の部位に限局するのが「焦点性」、興奮が両側大脳半球に起こるものを「全般性」と分けています。原因は、仮死分娩、脳の形成異常、染色体異常、感染症など様々ですが、もちろん原因不明の場合もあります。予後が良いてんかんは原因不明が多く、難治性てんかんは原因があることが多く、知的障害や他の疾患の合併頻度も高くなります。

Q2

てんかん発作時の主な症状を
教えてください。

発作として一般的にイメージされやすいのは、突然倒れ、体が突っ張り、そのあとガタガタ震えて意識も喪失する、これがいわゆる痙攣(けいれん)で、その間は呼吸も止まり口唇に血の気が無くなります。しかし中には、痙攣



入院診療部長 宮崎 知博

宮崎先生より

国の方針で、各県に一つは拠点病院を作ることが推奨されており、現在、全国で約半数の県ですでに活動していますが、残念ながら熊本県にはまだ拠点病院がありません。是非とも熊本にも早くできることを願っています。

はないが意識が曇り、なにか意味ありげな行動をするが後で覚えていない発作もあり、また、数十秒、意識が無くなり行動が止まる発作や、意識喪失がなく運動症状だけなど、種々あるのが発作です。それを繰り返し起こすのが「てんかん」という病気です。

Q3

てんかんが疑われたら、
どうすれば良いですか？

まずは「てんかん」かどうかをはっきりさせることが大事です。そのためには初めが肝腎で、やはり総合病院など小児科、神経内科などがあり、詳しい検査が受けられる病院を受診されることをお勧めします。MRI検査や脳血流検査も大事ですが、一番役立つのは今でも脳波の検査です。脳波をきちんと記録し、それらを病歴・臨床症状と合わせて総合的に判断します。



次号へ続く…



コ・メディカルのお仕事

第9回

共同住居「iハウス」



栄養士 世話人 高野 聖子

Q1 今の仕事内容を教えてください

共同住居iハウスには、地域で生活しながら治療を続ける22名の入居者がいます。ご家族や主治医とも相談し、他部署と密に連携しながら、本人の望む生活が住み慣れた地域で少しでも長く続けられるよう、365日生活のサポートをしています。

Q2 益城病院に入職して良かったと思うこと。

様々な部署があり、職種を超えて情報を共有できることが大きな魅力です。上司、先輩、同僚などに何でも相談できるので、仕事の悩みはその日のうちに解決できるよう、お互い努力しています。

Q3 自分の仕事についてのこだわりは？

利用者の頑張りや並走することを一番に心がけています。毎日相談に乗り、その人らしい生活が継続できるよう工夫しながら個人対応の支援をしています。

Q4 これから、どんなことを目指したいですか？

日々、利用者の笑顔が増えるよう、小さな悩みでも気軽に相談できる雰囲気づくりを心がけ、頼られるような存在になることが目標です。

スペシャリストのたまごに聞きました！

第9回 共同住居「iハウス」 精神保健福祉士 溝口 成美



Q1 益城病院について感じることは？

現在子育てをしながら仕事をしています。子供の体調不良などで急きょ休むことがありますが、「お大事にね」など、温かい言葉をかけてもらいます。周りの理解があり、子育てしやすい環境にあると感じます。

Q2 精神保健福祉士として心がけていることは何ですか？

利用者の方と同じ目線に立って話を聴くことを大事にしています。自分が知らなかったことも多く、利用者の方から学ぶことで知識が深まるとしています。

Q3 やりがいを感じるのはどんな時？

利用者の方が悩みや相談を打ち明けてくれます。日々の関わりの中で信頼関係を築き、少しずつ心を開いて頼ってもらえることにやりがいを感じています。

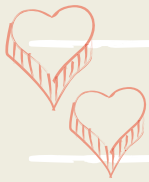
Q4 仕事で悩んだときは、どうしていますか？

同じ部署の先輩方に相談します。親身になって一緒に考え、時には一緒に行動してもらえるので心強い存在です。

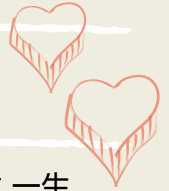


Q5 今後の夢について教えてください。

仕事面においても私生活の面でも尊敬できる先輩方が多いです。そんな先輩方のように活躍し、患者さんや後輩にも頼られる存在になれるよう、日々の仕事一つ一つを大事に取り組んでいます。



心の健康フェスタ&くまもと障がい者芸術展



在宅診療部デイケア科 本村 一生

「熊本障がい者芸術展」が県立美術館分館で、また、「心の健康フェスタ」が下通アーケードで11月27日(日)に開催され、精神科デイケアと院内作業療法の患者さんの作品を展示しました。今年はアールブリュットをテーマにしており、例年とは雰囲気異なる作品を展示してみました。作品を見に来た一般のお客様から、「どのように作っているのですか?」「こんなにレベルが高いと思わなかった」などの好評を得ました。『くまもと障がい者芸術展』では手芸部門で見事な賞を頂く事ができ、手ごたえを感じた芸術展でした。



けんこうup↑レシピ



昔からもち米は薬膳にも使われ、腹持ちが良く食べると元気になると言われています。旬の野菜でおこわを作れば、さらに栄養満点! 人参は型抜きすると華やかに仕上がります。

POINT

もち米を水につけておく時間はたったの30分。スーパーなどで簡単に手に入るほたて貝の水煮缶があれば、電子レンジであっという間に作れるおこわです。ホタテ缶を使うことで、だしをとる手間も省けます!

レンジで作る簡単おこわ

<材料>

- もち米……………400ml(2カップ)
- ほたての水煮缶or貝柱缶……………1缶(身と汁を分ける)
- しいたけ……………80g
- たけのこ水煮……………80g
- 人参……………100g
- 油揚げ……………小1枚
- 木の芽……………適量
- (A)水と缶詰の汁を合わせて200ml(1カップ)
- (B)調味料 ・酒……大さじ1 ・みりん……大さじ1
・うすくち醤油……大さじ1 ・塩……小さじ1/2

<作り方>

- ①もち米は洗って30分水につけ、ざるに上げて水気をきる。
- ②野菜と油揚げは3ミリ幅の薄切りに。
- ③ほたて缶の身を軽くほぐす(貝柱缶の場合は不要)。
- ④(A)に(B)を加える。
- ⑤大きめの耐熱ボウルにもち米としいたけ、ほたてを乗せて④を注ぐ。ふんわりとラップをして、電子レンジ600Wに9分かける。
- ⑥レンジから取り出して手早く混ぜ、残りの材料を加え、軽く混ぜる。
- ⑦再びラップをして電子レンジ600Wに5分かける。
- ⑧レンジから取り出して軽くまぜ、ラップをして5分蒸らす。盛り付けて木の芽を添える。

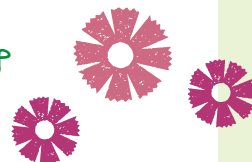
犬飼記念美術館主催の「お茶と音楽の夕べ」

10月8日、紅葉が色づき始めた美術館裏の公園に仮設舞台を設置して、篠笛とギターのコンサートが開かれました。立礼卓による抹茶席で和菓子とお抹茶を喫しながら、秋風の爽やかな日暮れに篠笛の音色とギターの響きあう心地よい2時間の夕べとなりました。美術館の常連さんなど多数の参加があり、終わる頃には待ちに待った十三夜の月が出はじめ、「良い日の催しだった。またの機会を待っていますよ」と多くのお声をいただきました。



益城病院創立70周年記念「風のガーデン」好評です

益城病院に以前からある畑の利用法について検討してきました。これまで、一部に四季折々の草花を咲かせていましたが、これが思いのほか好評だったため、一面に花を植えて地域の皆さまの心の安らぎの場として役立てようと、「風のガーデン」と命名して花作りを始めました。2022年、夏のひまわりに始まり、秋はコスモスが満開になり見応えあるものとなりました。季節ごとにデイケアの患者さんによる看板も作成しています。皆さま方にも楽しんでいただければ幸いです。



場所 | 熊本県上益城郡益城町福富953-1
(ひろやすにし保育園そば)



当院スタッフがはまっているものなどを紹介するコーナーです。
スタッフの意外性を新発見できるかも!?

わたしのイチ推し!

紹介します。

HEALTH

健康づくり

訪問看護ステーション
作業療法士 神野 裕一



私は健康オタクで、「飲む点滴」と言われている米麹の甘酒やノンカフェインの健康茶であるルイボスティーを愛飲しています。そして、朝の散歩、筋トレ、バドミントンなどで汗を流しています。また、心の健康のために日頃から笑うことを心がけており、先日、お笑いライブを鑑賞して腹筋が攣るほど大笑いしてきました。

数年前にダイエットインストラクターの資格も取得しました。心身に良い習慣をコツコツ続けることで体脂肪率が減り身軽になってきました。日常生活の中でできるだけ歩き、階段を使用することをおすすめします。職員のバドミントン同好会もありますので、興味のある方は、ご一緒に健康づくりはいかがでしょう。

BOOK

坂村真民の詩集

在宅診療部
在宅診療部長 末永 英士



読書も好きですが、詩を読むのも意外に興味深いものです。皆さんは、坂村真民(しんみん)さんという詩人をご存知ですか?愛媛県に記念館があるのですが、出身は熊本県玉名郡府本村(現:荒尾市)です。8歳で父親を16歳で母親を亡くされ、大変苦労された方です。

代表作に「鳥は飛ばねばならぬ 人は生きねばならぬ」という題の作品があります。これを、是非声に出して読んでみられたらと思います。他にも「念ずれば花開く」「二度とない人生だから」「本気」「鈍刀を磨く」など沢山あって、きっと皆さんの感性に合う作品と出会うことと思います。

現場に活かす研修成果

『第23回日本認知症グループホーム大会』に参加して

高齢者グループホームふるさと
介護福祉士 兼瀬 舞



10月26日・27日の2日間、三重県総合文化センターで開催された『第23回日本認知症グループホーム大会』に参加しました。

「集え!認知症ケアの未来のために」をテーマに、1日目は、認知症ケアと介護、高齢者医療の最新情報や今後の動向についての講演が行われました。講師は、以前、熊本大学にも勤務された大阪大学の池田学教授で、「医療・介護の連携と認知症グループホームへの期待」と題したお話の中で、認知症の症状が多種多様であること、脳のどこに障害が起きるかによって進行のスピードも異なることなどについて述べられました。だからこそ、その人のその時々々の症状に合わせた適切な支援が大切であり、そのためには一人ひとりをよく観察し、『何ができて何が困っているのか』を見極めることが重要であるということでした。

2日目の分科会では、昨年、当院での院内学会でも発表した「皮膚ケアの継続でQOLの向上を!」と題した皮膚ケアや清潔支援についての発表を行い、座長からのお言葉を頂きました。「白癬(はくせん)や乾燥によるかゆみ、さらにそこから蜂窩織炎(ほうかしきえん)へと悪化するのは施設等でよくあることで、そこに着

目し改善に取り組めたことを評価していただき、また、ケアを継続する中で、コミュニケーションやQOLへのつながりに気付けたことも良かった、との感想を頂きました。

全国のグループホームの発表を聞き、根底にある皆の思いは共通しており、「入居者が笑顔で少しでも良い毎日をご過ごしてほしい」という一心で様々な取り組みを行っているのだと感じました。改めて、自分たちだけでなく、全国にはこんなに仲間がいて一緒に頑張っているということがわかり、励みになりました。

このような研修参加・発表の機会を得たことに感謝し、この大きな学びを今後の実践に活かしていきます。



研 修 と 院 内 勉 強 会

院 内		
9月	2日	責任者・事務担当者勉強会(毎月)/栄養科勉強会
	7日	医局勉強会(毎週)
	30日	認知症対応強化勉強会(毎月)
10月	21日	救急車両搭載ストレッチャー更新に伴う取扱説明会
11月	9日	アルコール依存症拠点病院研修会(講演:松永哲夫)
	11日	益城病院認知症疾患医療センター講演会(講演:犬飼邦明)
	15~22日	クラインスプラン研修会(4日間)
9月~12月	全職員対象研修(eラーニング)	事例を実践に活かす行動制限最小化/チームの力で転倒・転落を予防する/他者と出会うための倫理 2022年度NST職員研修 2022年度第2回(後期)医薬品安全使用に関する職員研修 2022年度第2回(後期)院内感染対策に関する職員研修
院 外		
9月	2日	相談支援従事者初任者研修(山迫浩史)
	5~7日	精神保健指定医研修会(吉村裕子)
	6日	主任介護支援専門員更新研修(福島ひろみ)
	9~11日	日本自殺予防学会研修会
	10日	日本精神科病院協会熊本県支部看護研究発表会(森慎也)
	15日	益城町介護支援専門員研修会(福島ひろみ)
	16日	九州精神科病院協会各県理事合同研修会(犬飼邦明)
	29日	令和4年度熊本県自殺対策企画研修会(松下萌子)/上益城郡医師会在宅ケア研修会(福島郁雄)
	30~10/1	日本精神科救急学会(渡邊信夫)
10月	7日	熊本県相談支援従事者現任研修(園田烈)
	11~25日	日本精神科病院協会精神科病院における安心・安全な医療を提供するための研修会(3日間)
	12~13日	相談支援従事者初任者研修(山迫浩史)
	17日	熊本県精神科救急情報センター研修会(3名)
	18日	事務長会研修会
	21日	日本精神科病院協会学術教育研修会(岩谷優)/医療機関向けサイバーセキュリティセミナー(情報センター)
	26・27日	日本認知症グループホーム大会(兼瀬舞)
11月	27日	熊本県精神科病院協会看護管理者研修(6名)
	27・28日	日本精神科医学会学術大会(犬飼邦明)
	10日	相談支援従事者現任研修(園田烈)
	18~20日	第42回医療情報学連合大会・第23回日本医療情報学会学術大会
	19日	熊本アルコール関連問題学会(松永哲夫)
	24日	日本精神科病院協会認知行動療法研修会(森慎也)
	24・25日	第74回九州精神神経学会・第67回九州精神医療学会(犬飼邦明)
	25日	サービス管理責任者現任研修(無田千穂)
12月	27日	長崎県SBI R T S講演会(講演:松永哲夫)
	30日	精神保健指定医更新研修(倉元涼子)
	2日	令和4年度認知症初期集中支援チーム員伝達研修会(2名)
	7・8日	熊本県看護協会「認知症高齢者の看護実践に必要な知識」研修(嶋田考志)
	8日	相談支援現任者研修(園田烈)
	9日	令和4年度熊本県アルコール健康障害治療拠点機関研修(江邑由香里)
	13日	心のケア相談研修(園田烈)
	16日	九州地区障がい者相談支援事業合同研修会沖縄大会(山迫浩史)
17日	救急看護実践セミナー(2名)/日本精神科病院協会鹿児島県支部研修会(渡邊史子)	
22日	令和4年度認知症多職種共同研修「若年性認知症受入れ研修会」(6名)	

診療実績

単位:人

区分	9月	10月	11月	12月	
外 来	外来患者延人数	3,283	3,265	3,185	3,275
	(うち新規患者人数)	51	60	62	54
	平均外来患者人数	136.8	136.0	118.0	121.3
入 院	新入院患者人数	30	36	37	35
	退院患者人数	39	37	35	35
	在院患者延人数	5,924	6,067	5,764	5,990
	平均入院患者人数	197.5	195.7	192.1	193.2
	平均在院日数(単位:日)	171.7	166.2	160.1	171.1

実習生受け入れ実績

9月	熊本学園大学精神科ソーシャルワーク実習(1名)
10月	九州看護福祉大学精神看護学実習(8名)
	熊本保健科学大学作業療法学生実習(1名)
11月	崇城大学薬学部1年生早期体験学習(2名)
	三重県・社会医療法人居仁会施設見学(8名)
12月	九州看護福祉大学精神看護学実習(8名)

病院等行事

2022年9月~12月

9月	1日	辞令交付式
	15日	グループホーム「ふるさと」敬老会
10月	4日	辞令交付式
	6・20日	火災避難訓練(共同住居、アンファンビル)
	8日	お茶と音楽の夕べ〜篠笛とギターコンサート
11月	9日	就労継続支援事業所(B型)「まじきの風」マルシェ
	19日	非常用設備点検(停電時訓練)
12月	22日	クリスマスイルミネーション点灯式
	3日	第12回院内学会

編集後記

栄養科の一年は、毎年おせち作りから始まります。厨房内に広がる甘くて優しい蒸したてのおこわの香に深呼吸します。「新人の頃はこんな余裕なかったなあ」と年に一度のおせち作りにやや緊張した面持ちの若いスタッフを見て、しみじみと感じます。入社して15年、広報委員としてはまだ1年目。多部署の広報委員と共におせちのように心待ちにされる広報誌作りに励みます。

(広報委員: 栄養管理科 宮崎 佳子)



益城こども神楽教室による神楽鑑賞会
(令和5年1月7日)

益城病院

MASHIKI HOSPITAL

精神科・心療内科・小児科・歯科

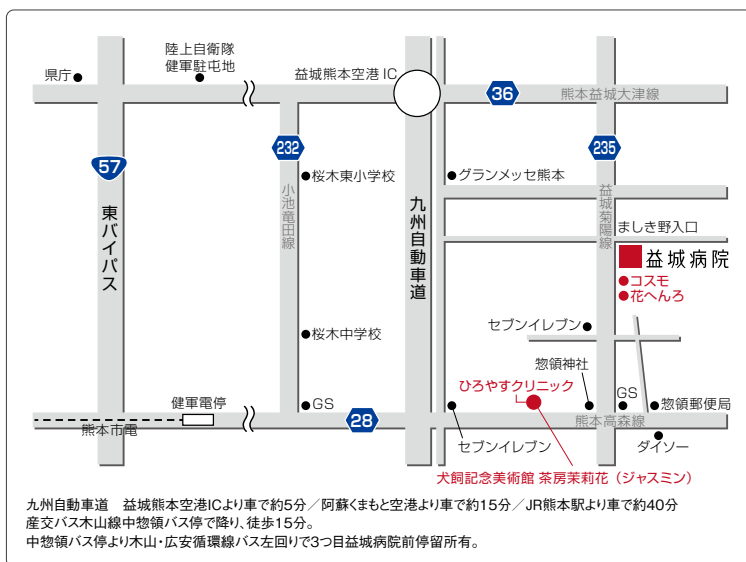
〒861-2232

熊本県上益城郡益城町馬水123

096-286-3611

外来電話受付時間(月曜～金曜)

午前 9:00～12:00 午後 13:30～17:00



付属施設

- 熊本県認知症疾患医療センター
- 高齢者グループホーム「ふるさと」
- 指定相談支援事業所「アントニオ」
- 訪問看護ステーション
- 居宅介護支援センター
- 就労継続支援B型事業所「ましきの風」
パン工房「まりも」、清掃・院庭管理「クリーンサム」
洗濯作業「あひるのしっぽ」、軽食・喫茶「風のテラス」
- 共同住居「iハウス」
- 宿泊型自立訓練事業所「コスモ」
- 育児室「あんふあん」
- 犬飼記念美術館
「こころと心のミュージアム」

関連施設

- ひろやすクリニック 内科・消化器内科・循環器内科・呼吸器内科・糖尿病内科
熊本県上益城郡益城町惣領1530
TEL 096-286-3636
- 特別養護老人ホーム 花へんろ
熊本県上益城郡益城町惣領1670
TEL 096-287-8706
- 養護老人ホームAKAI花へんろ
熊本県上益城郡益城町赤井1800
TEL 096-286-2075

表紙タイトル: We'll (うえる) “植える”にちなみ地域に根を張り、健やかな生き方をサポートしたいという願いを込めています。

表紙撮影: 岡野 俊博 発行: 社会医療法人ましき会 益城病院 広報委員会

写真: 「炎の舞」 砥川神社の奉納獅子舞

発行日: 2023年1月31日

ホームページは
こちらから▶



Facebookは
こちらから▶



益城病院

検索